

試行的評価の効果等に関するアンケート（素案）

大学評価・学位授与機構が行った試行的評価の方法及び効果に関するアンケート調査（全学テーマ別評価 / 分野別教育評価 / 研究評価）

本アンケートは、大学評価・学位授与機構が平成 12 年度から行った試行的評価の方法の適切性や評価を実施したことによる効果を把握し、今後の機構の評価事業の設計や改善の参考に資することを目的とするものです。具体的な評価方法についての質問などもありますので、貴大学等（大学共同利用機関を含む。以下同じ）において、試行期間における評価作業で中心となられた方がご記入くださいますようお願い申し上げます。なお、いただいた回答を別の目的に使用することはありません。また、選択肢の質問については集計した結果のみを公表し、回答頂いた大学名や回答者名は公表しないことを申し添えます。

評価区分	（例：全学テーマ別評価 教養教育）
------	-------------------

機関名	回答者役職	評価担当当時の役職等	回答者氏名
		（例：学内の評価委員会委員長）	

1．試行的評価の基本的な枠組みについて

以下の内容について 5 段階（5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない）でお答えください。

大学等の目的及び目標に即して評価を行うという設計は、機構の評価目的（大学等の改善及び大学等に関する社会の理解の増進）に照らして、適切であった。

大学等の自己評価を基本として評価を行うという設計は適切であった。

テーマ別評価、教育評価、研究評価と 3 種類にわけて評価を実施するという設計は適切であった。

テーマ別評価を大学単位で行うという設計は適切であった。

教育評価及び研究評価を学部及び研究科単位で行うという設計は適切であった。

大学人及び有識者から構成された委員会で行うという設計は適切であった。

評価報告書を社会に広く公表するという設計は適切であった。

2. 大学等における評価の実施体制及び作業量について

- (1) 本試行的評価において、貴大学等ではどのような体制で評価作業を行いましたか。委員会組織やその構成する人数や開催回数、ワーキンググループの有無、学内アンケート調査実施の有無等、概要で結構ですので、次の欄の中にお答えください。

例：副学長を議長とする評価委員会を学内に設置。委員は学部長など 10 名、開催 10 回。その下部にワーキンググループを設置し、自己評価書の執筆や根拠資料の収集を行った。委員は 10 名、開催 10 回程度。

- (2) 評価作業の負担は大学全体としてどの程度であったか 5 段階（多い、やや多い、どちらとも言えない、あまり多くない、多くない）でお答えください。

自己評価書の作成のための作業量

【教育評価のみ】基礎資料等の事前提出への対応（14年度のみ）

【全学テーマのみ】書面調査段階での確認事項等(9月)への対応(14年度のみ)

訪問調査・ヒアリングへの対応

意見申立てへの対応

- (3) 作業量について以下のことを感じられましたか。5 段階（5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない）でお答え下さい。

全体的に判断して、学内での評価は効率的に行われた。

今回の評価の実施によって、大学全体として教育・研究活動自体に大きな支障が生じた。

学内では評価の負担が少数の人員に集中していた。

学内全体で評価に費やした労力や時間は、社会への説明責任や大学の改善のためには妥当なものであった。

3. 試行的評価で実施した方法について

以下の内容について 5 段階（5：強く思う～3：どちらとも言えない～1：全く思わない）でお答え下さい。

（1）自己評価の方法について

機構からの自己評価の説明（自己評価実施要項や説明会など）は理解し易いものであった。

自己評価の方法は全体的に容易であった。

機構で「評価項目」「要素」を設定して自己評価をする方法は適切であった。

設定されていた「評価項目」（研究実施体制、諸施策の達成状況など）は適切なものであった。

設定されていた「要素」などは適切なものであった。

「観点」を大学自身が設定して評価を行うという方法は適切であった。

一般的な観点を機構が例示するという方法は適切であった。

例示された観点は適切なものであった。

【全学テーマ・国際連携のみ】活動の分類ごとに評価を行うという方法は適切であった。

（2）機構による評価の方法について

機構が行った評価は、貴大学等の目的及び目標に即して行われた。

【教育・研究評価のみ】教育 / 研究の評価方法は当該学問分野の特徴から鑑みて、適切なものであった。

【研究評価のみ】研究内容の水準及び社会・経済・文化的効果の評価について、各教員から提出のあった業績資料を基に判定作業を行うという方法は適切であった。

【研究評価のみ】研究内容の水準及び社会・経済・文化的効果の評価について、機構で設定した研究領域ごとに、判定結果に基づいて教員の割合を示すという方法は適切であった。

根拠資料に基づく評価という設計は、評価の公平性や透明性に照らして適切であった。

機構からの根拠資料の要求は適切であった。

訪問調査 / ヒアリングは適切に行われた。

評価のプロセスは透明性の高いものであった。

評価報告書を 5 段階（平成 12 年度着手分は 4 段階）で記述することは妥当であった

評価報告書に優れた点、改善点を指摘する方法は妥当であった。

評価結果を機構のホームページで公開しているのは適切である。

（3）機構側の評価実施体制について

大学評価委員会や専門委員会のメンバー構成は妥当であった。

【研究評価のみ】研究水準等の判定を行うための部会の構成及びそのメンバー構成は妥当であった。評価者は十分研修されていた。

評価プロセスにおいて機構側の事務的対応（質問への回答や事務連絡など）は適切であった。

4 . 評価結果について

以下の内容について 5 段階 (5 : 強くそう思う ~ 3 : どちらとも言えない ~ 1 : 全くそう思わない) でお答え下さい。

(1) 評価結果の内容について

機構による評価報告書の記述は適切であった。

機構による評価の水準判断結果は適切であった。

【研究評価のみ】機構による研究の水準判断は適切であった。

評価結果は公平なものであった。

(2) 評価を実施したことによる直接的な効果について

【全学テーマのみ】全学レベルでテーマ別評価を行うことによって、大学全体としての活動の適切性や目標の達成度合い、課題を把握することができた。

【教育・研究評価のみ】評価を実施することによって、学部の教育 / 研究の活動の適切性や目標の達成度合い、課題を把握することができた。

【研究評価のみ】評価を実施することによって、貴大学等の研究内容の水準や社会・経済・文化的効果の状況を把握することができた。

貴大学等でこれまで行ってきた自己点検・評価と比べて、本試行的評価では、より詳細な評価を行うことができた。

本試行的評価を実施することによって、第三者からの意見を得ることができた。

本評価によって貴大学等の活動について多面的に把握できた。

試行的評価を行うことで、貴大学等において大学評価についての理解や経験が増した。

(3) 評価結果の公表について

評価結果のマスメディアにおける取り上げ方は全体的にみて適切なものであった。

5 . 評価結果の利用について

(1) 評価による貴大学等における全般的な効果について

以下の内容について 5 段階 (5 : 強くそう思う ~ 3 : どちらとも言えない ~ 1 : 全くそう思わない) でお答え下さい。

将来計画 (中期計画を含む) の策定に役立った。

目的・目標に即した評価を行うことで、貴大学等の個性的な取り組みが促進された。

機構の評価によって、大学のマネジメントについて意識が変化した。

特定の活動について評価を行うことによって、その活動をバランスを逸して助長する影響が生じた。

大学等 (学部等) として評価作業の負担に見合う効果が得られた。

【教育評価のみ】全体的にみて、この評価が大学における教育活動の改善を促進した (或いは今後すると期待される) と思う。

【研究評価のみ】全体的にみて、この評価が大学における研究活動やその成果の質の向上を促進した (或いは今後すると期待される) と思う。

【全学テーマのみ】全体的にみて、この評価が大学全体レベルでのマネジメントの改善を促進した (或いは今後すると期待される) と思う。

【全学テーマのみ】全体的にみて、この評価が当該の全学テーマに関する大学の活動の改善を促進した (或いは今後すると期待される) と思う。

(2) 評価結果の貴大学等における具体的利用について

【全学テーマのアンケート用紙の場合】評価の実施以降に、評価結果に関わらず、各テーマに関わる活動の質の向上のために何らかの変更を行ったもの、あるいは予定しているものがありますか。ある場合に、各テーマの主要なものについて簡単にご記述ください。また、その改善において機構の評価 (貴大学等で行われた自己評価、機構の評価報告書の内容、並びに評価の過程で得られた知見を含む) はどの程度参考になりましたか。以下のような 5 段階でお答え下さい。

- 5 ... 機構の評価が非常に参考となった (機構の評価がなければ実施しなかった)。
- 4 ... 機構の評価は参考となった (機構の評価は主たる推進要因であった)。
- 3 ... 機構の評価はある程度参考となった (機構の評価は複数ある推進要因の中の一つであった)。
- 2 ... 機構の評価はあまり参考とならなかった (機構の評価は付随的な要因であった)。
- 1 ... 機構の評価は全く参考とならなかった (機構の評価とは一切関係ない)。

記入例 (教養教育評価の例) :					
教養教育の科目構成を主題別に変更し、来年度入学生から実施予定である	1	2	3	4	5
実施体制や改善のための体制に関すること					
	1	2	3	4	5
	1	2	3	4	5
	1	2	3	4	5

実施方法や実施内容に関すること	
	1 2 3 4 5
	1 2 3 4 5
	1 2 3 4 5

注：本アンケートは各テーマごとに配布するため、「教育サービス面における社会貢献」「教養教育」「研究活動面における社会との連携及び協力」「国際的な連携及び交流活動」の該当するものについて上記を回答してもらう。

【教育評価のアンケート用紙の場合】

記入例： 学生による授業評価を学部全体で実施し始め、その結果を教員が授業改善に用いている	1 2 3 4 5
教育の実施体制や改善の体制に関すること	
	1 2 3 4 5
	1 2 3 4 5
	1 2 3 4 5
教育内容、教育方法や学習支援方法に関すること	
	1 2 3 4 5
	1 2 3 4 5
	1 2 3 4 5

【研究評価のアンケート用紙の場合】

記入例： 学長裁量経費による分野横断的な学内研究プロジェクトへの助成を開始した	1 2 3 4 5
研究実施体制、支援体制や改善のための体制に関すること	
	1 2 3 4 5
	1 2 3 4 5
	1 2 3 4 5
研究活動のための諸施策・諸機能に関すること	
	1 2 3 4 5
	1 2 3 4 5
	1 2 3 4 5
研究内容に関すること	
	1 2 3 4 5
	1 2 3 4 5
	1 2 3 4 5

貴大学等では、上記以外に機構による評価結果をこれまで何らかの方法で具体的に用いた例がありますか。ある場合は書ける範囲で以下の枠内にご記入ください。

例： 貴大学等の広報誌に掲載、外部資金獲得の申請などにおいて参照情報としての言及など

(3) 利用における長所、短所

機構の評価結果を改善のために利用しようとする際に次のことを感じられましたか。5段階でお答え下さい。

評価結果は貴大学等の実態に即したものであったため、利用しやすかった。

評価報告書に優れた点、改善すべき点が明確に記されており利用しやすかった。

改善方策への提言がないために利用しにくかった。

他大学の評価報告書における優れた取り組みを参考にすることができた。

大学内で評価結果の内容が浸透していなかった。

国立大学法人化に伴う影響が大きく、評価結果の内容は反映しにくかった。

その他（具体的に _____)

(4) 評価結果の社会における利用について

以下の内容について5段階でお答え下さい。

本試行的評価によって、貴大学等の活動について国民の理解が増進されたと思う。

本試行的評価によって、貴大学の活動について高校生（将来に貴大学に入学する可能性がある学生）及びその保護者の理解が増進されたと思う。

本試行的評価によって、貴大学等の活動について政府（国及び地方行政団体）や公的機関からの理解が増進されたと思う。

本試行的評価によって、貴大学等の活動について関連セクター（たとえば産業界、病院、非営利セクターなど）からの理解が増進されたと思う。

6. その他

その他にご意見やお気づきの点などがありましたら、下記に自由にご記入下さい（ない場合は空欄で結構です）